

令和6年度 第4回崇化館地域会議 会議録

■日 時 令和6年8月20日（火）午後6時30分～午後8時00分

■場 所 崇化館交流館 4階 第2会議室

■出席者 <委 員> 板倉 しをり 伊藤 貴史 稲本 泰孝 井上 眞一
太田 眞由美 木村 友浩 柘植 伸夫 戸田 博基
永井 靖美 永山 慎二 服部 啓二 林本 基
藤井 康博 藤村 匡泰 本多 鋭孝 松山 純成
山内 由美子
<交流館> 近藤かおる（崇化館交流館館）
<事務局> 杉浦 智文（拳母事務所長）
田嶋 優俊（地域支援課担当長） 青木 剛（地域支援課主任主）

■次 第

- 1 開会 豊田市民の誓い唱和
- 2 会長あいさつ
- 3 前回の振り返り（質疑回答）
 - （1）既存地域データの共有
崇化館地域カルテ 2022.4（抜粋）
とよたデータボード 2023（抜粋）
 - （2）避難所（小中学校体育館）空調整備
 - （3）市役所駐車場の「一時避難場所」標示
 - （4）地域課題解決事業のフロー
- 4 課題候補の選定
 - （1）良い面、悪い面の中で優先度・重要度を決める。
 - （2）良いところはさらに良くできないか、悪いところはそれを逆手にとってより良くできないかを検討する。
 - （3）選定の留意点（地域課題解決事業化の視点）
 - ① 地域や仲間とならできること……わくわく事業
 - ② 地域と行政の共働ならできること…地域課題解決事業
 - ③ 事業化の可能性………具体化（取組）の想定
- 5 連絡事項
第9次豊田市総合計画に関する答申に対する検討結果報告等

■議 事（要約）

3 前回の振り返り

第2回地域会議で委員から出された質疑に対する回答を行った。内容は別紙のとおり。

4 課題候補の選定

地域課題の選定について意見交換を行った。内容は別紙のとおり。

5 連絡事項

- ・第9次豊田市総合計画に関する答申に対する検討結果報告を説明した。
- ・費用弁償支払について説明を行った。

【主な意見】

＜前回の振り返り…質疑回答に対するご意見＞

- (1) 地域カルテは、人口推移や市の施策満足度、地域の課題認識等が記載され2022年4月版が最後で更新の予定はない。地域カルテに代わる「とよたデータボード」は崇化館中学校区の情報として人口は今がピークになっていて若干減っていくという予想や自治区加入率は市全体が79.76%で崇化館は88.73%といった内容が記載されている。
- (2) 指定避難所である小中学校体育館は令和6年度と7年度に市内全校の空調設備整備が予定されており崇化館地域の4校は令和6年度中に整備される見込みである。
- (3) 市役所東庁舎駐車場の「一時避難場所」標識は「二区西部自治区」管理の自主避難場所指定避難所に移動する前の一時集合場所だが標識の改称がされていない。
- (4) 地域課題解決事業実施までのステップは、地域会議による課題の洗い出しと解決策検討から、提言、事業計画策定、予算計上、地域と市が共働で事業実施するという流れと課題の洗い出しから事業実施には通常、2年から3年を要しスケジュールは流動的なものであると説明。

委員 地域会議は、市の力を強くするためにも地域の力を借りたい、地域が自ら何か地域のために頑張って力を出して欲しいと、自分たちの地域のためにこの中でやって行こう、市にはお金を出してもらって多少担当課の力を借りてという立ち位置で成り立っていると思っていたがそうではないのか。

事務局 地域会議に予算が付いていて執行権があるわけではないが「市役所が勝手にやります。」というものではなくて、提言を受けて共働でやっていくことなので、ここは市が実施する。でもここは地域で動いてもらった方がより効果的に事業ができるということは地域が実施する。そういった役割分担をしながら事業を進めていくものと考えている。

委員 それではあくまで能動的なのは地域会議で受動的なのが市ということか。別に地域会議が主導するわけではないが、市長がなぜ地域会議を作ったのかというのは地域の方から能動的に地域をよくして欲しい、行動して欲しいということで作っているものだと思っている。

事務局 そのとおり。

＜崇化館地域の課題の洗い出しについて＞

会長 生死にかかわる防災のことが一番やりたいと思うが、他の方のご意見をお聞きしたい。

事務局 共働による事業実施が前提ですので、課題の洗い出しとして、どんなことに取り組むかを考えるときに、どなたがどんなふうに動かれるかということイメージしていただきたいというところがあります。

事業については委員の皆さんが直接動かれるものではないですが地域のことをよくご存じの皆さんですのでどのような地域団体が想定されるのかといった辺りを意識していただいて課題解決ということをご検討いただくと形になりやすいと考えています。

- 委員 豊田市自体が言っている、「つながり・関係性の拡がり・深まり」といったものを重視していく、ここで決めていく事業が沢山の人を巻き込みながらつながりを持っていけるような形の提言になったらいいなというのは思いました。
- 具体的にやることが決まった時に手法として人と人がつながりをもっと持てる、地域としてやっていけるような感じのものなればいいなと思います。
- 委員 若い方はいるけれど自主的に参加される方が少ないというのが現状ではないかなと思うんです。若い方が地域の中でやっていくよう向けていける流れがあると豊田市は特にすごくいいんじゃないかと思います。
- 委員 崇化館地区の自治区加入率は88%で地域のコミュニケーションが取れておりそれは防災に役立ちます。そういった人たちに定着してもらうことが大切なので、やはり安心して暮らせるというのがキーワードになると思います。防災について、例えば避難所に集まるには避難所が小さすぎる、だけど若い世代は自分たちでキャンプをされる方も多く、避難所の中に入らなくてもグラウンドで支援が来るまでの72時間耐えられる、自分が助かることが第一だけれど自分が助けるという、それが共助に繋がるのでそういったイベントのようなことをやるとコミュニケーションが取れます。
- 委員 自治区の防災対策委員というのは70歳くらいが平均年齢になっていてこれで本当に防災ができるのということがありまして、今年から防災上の話は全て昼の部と夜の部に分けました。昼の部の人は定年する60歳くらいから上の人で夜の部は20歳くらいから60歳手前くらいの世帯に分けて分担するという体制にします。
- 委員 区民の皆さんの側も把握していないというか、何も考えられない状態になりますよといっても、中々ついてきてくれないです。ですからその辺は我々が千年に一度の水害があったらどうなるかその内容を皆さんに説明して、我々自身がまずは危機感を持たないと中々区民の民さんに理解してもらえないというのが正直なところです。
- 委員 是非、中学生を巻き込んで欲しいです。中学生はすごい力になります。体も三年生になれば大きいですし、大きな災害では実際に避難所で中学生の子たちがよく活動している姿が見られます。やはり中学生というのは地元にいるのです。その子たちも地域のためになろうという意識が根付いたりするので機会があれば、お声がけをしていただけるといい効果が起きるんじゃないかと思います。

《今後の予定》

●令和6年度 第5回崇化館地域会議

日 時：令和5年9月17日（火）午後6時30分～
場 所：崇化館交流館 4階 第2会議室